

VI. 平成8年度 環境科学研究科プロジェクト報告

1. 環境科学実習「筑波山および周辺の観察」の改善のための試み

田 瀬 則 雄(地球科学系)

中 村 徹(農林学系)

腰 塚 温 昭(環境科学)

環境科学実習「筑波山」も10年近くになり、多少マンネリ化の傾向が生じていることは否定できない。そこで今回は内容・実施方法を再検討し、より充実し、魅力ある実習のための資料の作成、インターネットを利用した情報・資料の提供、配付資料の改訂などを試みた。

数回の会合を持ち、これまでの見学・観察地点、項目の洗い出しを行い、新たな項目の掘り起こしなどを行った。真壁町の薬王院周辺の暖帯林やミカン園、八郷町の西光院(玉ねぎ石、盆地地形)などが新たな候補としてリストアップされた。

これまで一つの目玉にしてきたゴミ拾いについても検討したが、ここ2～3年ゴミの量も減少気味であるので、平成9年度はゴミ拾いを中止し、新たな試みをする事とした。

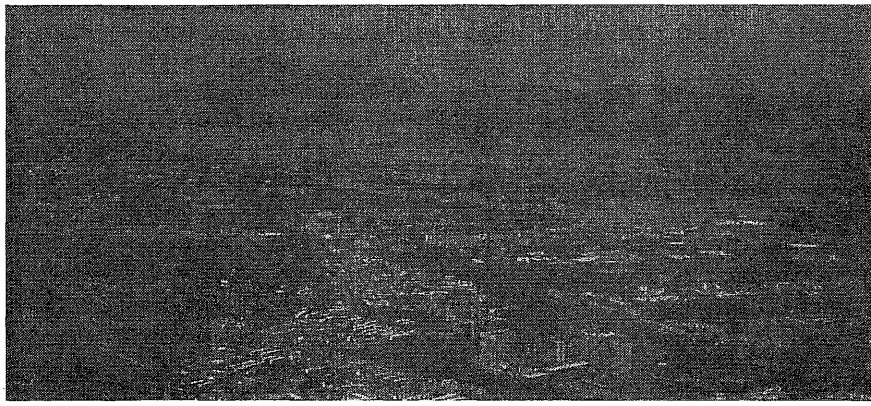
実施方法については、学生数を縮小し、バス1台で実施できれば、より効果的に観察、解説が行える可能性が指摘されたが、当分は他との関係もあり難しいとの結論となった。実習のホームページを環境科学研究科のサーバで試験的に開始した。アドレスは<http://kankyo.envr.tsukuba.ac.jp/~tase/>で、基本的には公開であるが、今のところ学外への広報は行っていない。筑波山実習のホームページ(62～63ページ)は流域環境研究室のホームページの1つのメニューとしてある。内容は、まだまだ十分なものではないが、時間のある時に増補、充実させており、できるだけ早急に内容のあるホームページにしたいと考えている。ホームページでは地形・地質、植生、気候・気象、水文、文献・情報、水車、神社、石材産業などを取り上げ、付録として温泉、酒造について紹介している。天気概況、予報など一部については他のホームページにリンクし、必要な情報にアクセスできるようにしている。

平成9年度の実習においては、ゴミ拾いは実施せず、グループ別の自然観察に重点を置く予定であるが、今後も改善を重ね、よりよい実習を模索するつもりである。

1997年度 環境科学実習 筑波山とその周辺

1997年4月3日よりのアクセス回数

265



• 目的

このホームページは筑波大学環境科学研究科(修士課程)において、必修科目として開講されている環境科学実習の1コマとして実施されている「筑波山とその周辺の観察」のためのものである。

参加院生には観察ガイドブックが配布されるが、情報が限られ、カラー表現できない写真・画像などがあるので、それらを補うためのものでもある。参加学生にはこの情報を元に事前に観察のポイント、関連事項などを調べてもらいたい。

この実習に参加しない院生、その他の方で筑波山周辺の自然環境、人文環境などに関心を持っておられる方にも参考になれば幸いである。なお、開設したばかりで内容が不十分であるが、今後充実してゆく予定である。

• 日程・行程表 天候により変更するかもしれない

5月17日〔土〕

- 8:30 筑波大学本部棟前集合(厳守) 遅刻は認めない、途中参加は不可
- 8:45 出発
- 9:15 つくし湖到着、薬王院周辺観察(暖帯林、ミカン園、寺社)
- 10:30 同上 出発
- 11:20 筑波山つつじヶ丘 山頂へ登山
- 12:30 御幸が原到着 昼食
- 13:00 6班に別れ、自然観察(植物、鳥類、地学)
- 14:30 集合
- 15:00 ケーブルカーにより下山
- 15:30 筑波山神社 市営駐車場出発
- 16:30 大学到着 解散

• 担当教官

松本栄次(自然地理学、地形学)
安仁屋政武(リモートセンシング、地形学)

田瀬則雄(世話人)(水文環境学)
鷲谷いつみ(植物生態学)
寺島一郎(植物生理生態学)
小林 守(気候学・気象学、環境科学)
斉藤隆史(動物生態学)
中村 徹(世話人)(植物生態学)
甲斐憲次(気候学・気象学)
伊藤太一(自然環境計画)
腰塚温昭(植物生態学)
小野寺真一(水文学)

• レポートの提出

A4版レポート用紙2枚(表紙は無し、番号、名前、感想など)を23日(金)正午までにレポートボックスへ提出。

• 目次

地形・地質
気候・気象
植生
鳥
水車
霞ヶ浦用水事業
石材産業
芝
薬王院
筑波山神社
真壁城址・小田城址
文献・情報
お酒
温泉

最初のメニューへ



環境科学研究科のホームページ

環境科学実習・筑波山 e-mail: 世話人: 田瀬則雄(地球科学系)